

8000

109

104

面

軍機

武中瀾軍機密
一水戰機密第一四號ノ九
昭和十八年八月一日

水雷部隊(北方部隊)戦闘詳報

第一號

八月五日

6/30

自昭和十八年七月二十一日
至同 八月一日
上号第二期作戰(第二次)

第一水雷戰隊司令部

目次

- 一 形勢
- 二 計画
- 三 経過
- 四 令達報告等
- 五 戦果及被害
- 六 功績
- 七 参考

- (一) 戦訓
- (二) 其、他

- (一) 阿武隈國後及岩葉初霜長波觸衝顛末 (別紙其二)
- (二) 作戰中、霧中航行ニ對スル戰訓所見 (別紙其三)
- (三) 輕巡後甲校七糧野戰高射砲假裝備要領(阿武隈例) (別紙其三)
- (四) 驅逐艦大斧搭載要領(郷音ノ例) (別紙其四)

165

(11)

天氣圖

(一) 天氣線參考
(二) 天氣圖

(別冊其ノ二)

(別冊其ノ三)

(目次終)

2

一、形勢

(イ) 敵情

自昭和十一年八月一日カ号第二期作戰(第三次)戰鬥詳報

(一) 敵ハ五月二十九日アツツ島ヲ完全ニ攻略シテ之ニ水陸飛行場ヲ急

速設營シ我ガ北辺ノ偵察及空襲ヲ開始シ七月十九日台守

島方面ニ對シ初空襲ヲ敢行セリ

(二) 鳴神島ニ對シテハ敵ハ同島周辺ニ哨戒艦艇ヲ配シ我ガ鳴神

島ニ對スル補給ノ遠斷ヲ策スルト共ニクルツク及アマチトカ

兩飛行基地ヨリスル執拗ナル航空攻撃及水陸艦艇ヲ以テスル砲

臺ヨリ我守備部隊ノ戦力低下ヲ圖リ以テ同島ノ攻略奪還若

ク自滅ヲ企圖ニツツアルモノヲ如シ

(三) 敵潜水艦ハ本洲東方海面及千島方面ニ出没後方攪乱ヲ策スル

ト共艦隊ノ動靜ヲ監視シツツアルト確實ニシテ特ニ五月以降千島列島線ノホソクノ海側ニモ盛ニ出現我ガ商船汽船等ヲ攻害スルニ至レリ

(四) 我軍ノ情況

- (一) 第一基地航空部隊ノ大部ヲ北千島方面ニ展開シ東方洋上噴我ニアツク島方面ノ索敵攻害作戰ヲ實施スルト共ニ大警部隊及陸軍部隊ヲ以テ北千島方面ノ急速防備強化ニ努メツアリ
- (二) 五十一根部隊及北海守備隊ハ緊密ニ協力。鳴神島ノ確保ニ全力ヲ集中シツツアリシモ六月初頭該部隊ヲ北千島方面ニ轉進セシメラルルニ決シシケレテ作戰(六月下旬以降先ツ潜水艦ヲ以テ右作戰ヲ開始セラレタリ)

(三) 六月中下旬ニ亘リ伊九潜、伊二四潜、伊七潜相續クテ敵哨戒艦艇攻害ノ犠牲トナルニ及ビ潜水艦ヲ以テスルケレテ作戰ヲ實施

二 計画準備

(一) 計画

機密北方部隊命令作第百〇号 機密水雷部隊命令作第百四号
及同第五号 (別紙) 一通

(四) 殆ど不可能視セラルルニ至リ同作戰ヲ中止セラル
一方七月中旬決行ヲ目途トシテ計画セラレツツアリシ濃霧ヲ利用
スル巡洋艦及驅逐艦ヲ以テスル大舉撤收作戰ハ右潜水艦ヨリ
作戦ノ中止ニ伴ヒ早期實施ヲ要スルニ至リ收容部隊ハ七月十日
鳴神島突入り期シ出雲ニタルモ氣象狀況我ニ味方セズ補給
船ヨリ燃料補給ヲ實施シツツ數日間待機スルモ遂ニ時機至
ラス一旦幌筈海峽ニ歸投セリ

(五) 右第百次作戰ノ不成功ニ鑑ミ急速準備上七月下旬ヲ期シ再舉
断行セラルルニ決セリ

(四) 参加兵力 (軍隊区分)

區分	指揮官	兵力	任務
巡洋艦部隊	本職	阿武隈、木曾	撤収員收容
收容驅逐隊	100g 司令	100g 響	同 右
第一警戒隊	200g 司令	若葉、初霜、長波	護衛警戒要スル收容
第二警戒隊	島風、五月雨	同	同 右
補給隊	泉丸指揮官	日本丸、國後	補給要スル應急收容

(三) 準備

本小戦為特ニ資施ル準備事項左ノ如シ

(一) 兵器施設等

(1) 應波検知器 裝備

未裝備艦ニ對シハ海丸ニ作部ニ依リ固定電波検知器 裝備特ニ阿武隈、朝
 雲、夕雲、響、五月雨、初霜各艦ニ對シ旋回式電波検知器 裝備

(2) 陸軍七糧野戰高射砲 裝備
 阿武隈、木曾各一門 後甲板ニ假裝備

(3) 搭載物件

物件名	用途	船名
大砲	人員收容	阿波
小砲	人員收容	長門
製道板	陸岸より大砲を移乗容易にする	高島
折置舟	人員收容	長門
全機械		高島
索梯子	本砲より軍艦に駆逐艇へ移動する容易にする 天候に復し難い	高島
ドラム缶(重油)	行動用燃料	高島
反射作	敵機偵察機	高島
酸素瓦斯	揚物気球用	高島
氣球	鳴神及び海中敵機回避用	高島

(一) 教育訓練

(1) 木曾廣波探信儀ニル實、驗射雷ヲ六月二十日陸奥海灣ニ於テ實施、廣波探信儀精度不良、為現兵器ヲ以テハ實用的効果期待薄シ

(2) 出動訓練

七月四日木曾廣波ニ於テ各種戰鬥訓練實施

(一) 日本丸ニヨル曳船補給訓練ヲ含ム

(三) 其他

(1) 不要物件ノ処理

作戰ニ直接關係ナキ圖書類短艇兵器物件可燃物等ヲ陸上倉庫及明石山丸(特設運送船)ニ陸揚(格納)處理ス

(2) 永戰艦ニ氣象隊係士官(第五氣象隊附隊備少尉)一名配屬

109

(5) 撤收人員 收容後ノ糧食トシテ乾麵麩携行糧食等七食分ヲ準備ス

(4) 大発搭載引卸ノ實驗

大発搭載驅逐艦ニ對シテハ搭載準備工事完了後栗田九及明石丸ニ横付けシテ該艦(船)ヲソク使用各驅逐艦毎ニ搭載引卸ノ實驗ヲ實施ス

(5) 島風ノ全能発揮ヲ期スル為多摩艦探員三名摩耶信員下士官一名臨時乗艦センメタル他秋雲ニ氣象員一其他艦ニ電探員トシテ多摩艦探員五名ヲ配乗セム

110

三 経過
七月二日

敵情	氣象	経過概要
<p>一 航空機 (1) 哨戒 (自。八三七) (2) ツツノ基地。三 一三区 (四) 攻塵 一〇五B九機鳴神 島津襲撃飛行場 根拠地隊本部地 区爆塵 三掃海</p>	<p>一〇六〇。Isd 氣象判断鳴神 島) 三日曇時々晴間アリ 四日偏西又偏東風 一〇米霧雨 五日曇時々晴間アリ 六日曇時々霧アリ 七日曇時々霧又天 八日 天気悪ク見込</p>	<p>二九〇。幌筵海峡出雲、予定ナリシモ濃霧 為、視界五〇米以内、暫ク待テ 二〇。出雲(當時視界約一〇〇米)針路 三五度速力九節第二警戒航行 序列 二三 速力十二節 三五 針路一八〇度トナス 三六 速力一四・五節トナス 三八。五航隊旗艦ヲ一時多摩ニ変更 セラル</p>

鳴神島松崎手五
即名トノ連結線外
方一哩線及二哩線
ヲ小掃海具ヲ以テ
掃海拘束機備セ

三鳴神島方面
終日曇霧多ク視界
一八軒飛行不適
三行動海面
二三頃濃霧未散
亦後多少ノ濃淡
毛概不濃霧

七月二三日

敬情	氣象	經過概要
<p>一 船隻 (1) 哨戒 至(四三二八) (2) 子力 基地七八 九區 (3) ツノ 基地(一三三) 熱田基地(一〇四) (四) 攻撃</p>	<p>一〇六。根氣象判断 二四日 偏南風 余霧 二五日 偏南十二米 霧 又 霧雨 濃く 天氣 不良 二六日 南風 天氣 徐々 二四復</p>	<p>一 濃霧 為 編隊 航 容易 ナラズ 特ニ 補給 隊 續ク 困難 〇三。二。度ニ 變針 予定 リシモ 隊形 混 乱ヲ 考慮シ 視界 好轉ヲ 待ツツ 南下 日 本丸 續ク ヲ 容易 ナラシム 為。ヒニ 七連 カ十 節ト ナス (日本丸 了解) 東方 變針ニ 因 巨 外ト 左 擊 應 対アリ 〇三。二。日 外 ↓ A 15d (艦 誌) 遅ク モ 刻 迄ニ 變針 予定 日ニ 間ニ 合 フ 様 行 動 セリ 〇三。二。日 A 15d ↓ P 5 (艦 誌)</p>

海保洋用)

戦果

轟撃観測機三二五

B-38 二

大中破七機

被害

東軽傷九大発一

莫大破其他相

備大

三艦艇

140.51.0.52 松崎

160.度三二四.41

駆逐艦二隻程度

時々晴間アリ

二日 偏西風曇時々霧

三日 曇又ハ天気悪ク九

六日 大風不良

三行動海面

〇三五濃霧未散

亦後三〇〇一三〇濃霧稍散

ナリタル外 濃霧視

界概不一〇〇米以内

四鳴神島方面

午前 西風 七〜八米

午後 東風 一米程度

晴若ハ曇ニテ霧少シ
飛行最適

國後ト電話連絡トシ今ハ変針不

安ナリ

11.2.8 P 57 ↓ A 15A (電話)

要スレバ國後ニ中波ヲ通信ニ指令ス

変針在レテト認ム

11.2.8 A 15A ↓ P 57 (電話)

國後ハ中波ヲ待受レ居ラス

11.2.5 P 57 ↓ A 15A (電話)

此ハ状態ニテ國後落伍モ已ムヲ得リ

ルモノト認ム

右ハ司令部指示ニ依リ

日本丸 電話連絡ヲ確認シ霧中変針ヲ決

意

視認(探知)

(四) 五三。松ヶ崎四度

約。料巡洋艦三

(六) 巡一甲巡三内(新

型) 驅逐艦二

旭半島南方ニ巡洋

艦一 驅逐艦二 襲

。九四五ヨリ約三十分間

全島砲撃(観測機

六使用)

(一) 五三。一七五。驅逐

艦(隻) 鳴神富士

。度十ニ料巡洋

一五。針路一五。度

二六。八針路二。度トナル(本電話局後ト)

(連絡ナシ)

以上記ル象觀察ヨリ二六日、天候ハ突ニ道

セザルコト

(四) 既ニ隊定ノ航程ニ対シ約。時間航程ノ進

ムヲ生シアリ又日ヲ于日本トシテ行動ス最

後、燃料補給後響薄雲放テ約五分

頃、燃料過消費トナリ爾後ノ行動ニ支

障大ナルコト

以上ヨリ判断左ノ通具申ス

一五。五。A-15a ↓ B-15a (密話)

一七。ヨリ一四節トスルニ。特向航程ヲ連レ

東西ニ反復行動
三六。驅逐艦一隻
七夕崎園方約二軒
ノ西行

屋上リ日本丸分商後、燃料、関係上、日延
期方取計ハレ度
三、右對シ一八。日下ヨリ左ノ命ニ接ス
一、取收ヘシ針路九。度速力四節トナシ
予定目ニ應カレカウ行動セヨ
四、一八四。針路九。度
一、九一。速力十四節トナス
五、三〇。頃以後長波日本丸國後後落
ス
長波ハ多摩附近ニアリ長波日本丸ハ電
話連絡可能モ國後ハ一三。以後電話
連絡杜絶ス（亦後調査ニ依リハ國
後三十四日三。頃迄ハ水中聴音ニ依

リ推進器すノ南キツソ續行セルモ以後
 感カレ電路連絡亦トリス針路一五。度ニ
 テ航進セリ當時主队ハ針路一。度續イ
 テ九。度速力十四節ニテ航進セルニ依リ此
 間ニ後落分カヨシタルモノト認ム
 六一九三。左ノ通國後ニ當隊行動通報機
 通經由大湊放送
 一九。我四。度四九分北一五七度二七分
 東針路九。度速力十四節

七月二四日

敵情	気象	経過概要
<p>◎船隻 哨戒(組。三。一。) クルツ」基地七二区 上三區(二機) 熱田基地六上。區 内七區(二機) 十三區哨戒隊の 艦六通アリ同様ノ 連難ヨルヒト認 四攻專ナシ</p>	<p>一。Isd 氣象判断鳴神島 二。偏西七未は暑時々勝 三。日暑時々晴間アリハ 濃霧 十島列島ニル低気圧 一。三。三。全達シツツ 徐東北東ニ進行ス ルモノトハ二日後鳴 神島南方ヲ通過 スル為濃霧若シテハ 低気圧ハルモノトセハ</p>	<p>一。七。四。日下 ↓ A Isd (唐語) 制勝隊形因此補給困難ノ實情鑑 ミズ日延期ニラ得スト認ム適宜速力低 下等行動ニ関シ意処サレ度 二。八。三。五。五。對シ左ノ通回答 現針路速力因後ニ通報消在ヲ以テ暫 クノ行動ヲ續テ勝甯ルヲ待テ意処ス 三。三。頃ノ情况判断 日本日。。ノ天氣因ヨリ判断スルニ鳴 神ノ天候ハ二五日二六日良好ニテ七月以 降テラズハ勝發生ノ望少シ</p>

114

一、オホツツ「海」高気圧
 (七、四粒)ノ東進ヨリ
 天気ハ曇程度トナル
 三月曇時々晴
 三月天気悪クナル
 二、鳴神島方面
 日中偏西風一〇米以内外
 曇若ハ細雨霧降ク
 視界ヲ區々トモ概不
 良飛リ不道
 三、行動海面
 二〇〇一五三ノ間視界ヲ三
 〇〇一八〇〇米トナリタル
 四、二三ノ頃相前後シテ多摩長波発見合
 同ス(視界約六〇〇米)
 長波(二三。度一ニ五。度)
 初霜(三五。度一〇。度)ヲ分派間ニテノ視
 界不良トナリ引返シム
 六、五四。一三五度方向霧ヤリ日本丸ヲ認
 メ合同速力ニ節トナス
 國後以外全部合同ノ了ス

トアリシ外其濃傍視尊ヲ七二四〇木曾
概不五〇未以内海平 一五〇阿武隈

穂

夫々後装滿高射砲式射行(木武
射)発砲及炸裂音ノ目亦九ニ一聽取
シ備隊ニ對スル占位ヲ於リ反轉シ(五四)合
周ス

七月二十五日

敵情	気象	経過概要
<p>一 航空機 小哨戒 (目。二二) 五。三。四。五) カルック「基地」一三區 (七三區共「機」) アムケトカ「基地」一七區 熱用基地五一九區 四 攻虫 三。四。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。</p>	<p>一。六。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。</p>	<p>一 日出前六空場落リ哨戒機ヨル被発見 ラ慮リ熱用及アムケトカ「五。三。四。五」 圏外ニ出スル如ク行動。三。針路三五 度トス 二。九。三。頃以後徐々ニ隊形変換日本丸 ヲ先頭トシ縦陣列制形 三。二。三。一。八。日本丸ニヨル驅逐艦燃料 補給實施 終始四空場中ニ實施セシモ事故ナク順 満ニ経過セリ 四。九。五。針路六八度トシ二七。日空合應</p>

戦果 戦艦一隻沈没(西一)
 不確実(三)機
 出役
 被害 重軽傷各一具
 他軽微
 未装ヒルハ終ト全部
 戦機三機ニシテ爆出
 機三十一機ハノック
 ンナトクニテ電波
 整合待機ニアリ
 艦艇

不良ト九
 若シテ低気圧噴
 ヒルト後定ハバホ
 ツノ海ノ高気圧ニ
 六ノ機(東)進行ス
 ルヲメ大行天気異常
 ナル
 二日 天気悪キ見込
 三 鳴神島方面
 編西ノ至南ノ風弱キ概
 不晴
 視界極メテ良好
 日中傍極メテ少シシキ報リ

八ルヤク行動ス
 五、七、八、頃ヨリ阿武隈朝雲、響等ヲ於テ
 四、三、五、六、ノ N E R K 一ノ感度大、多
 摩ハ、二、〇、〇ヨリ毎時ノ初及三十分ヨリム
 分間ニ九、〇、一、三、〇度間ニ敵潜水艦
 ノ探知ラレキモノヲ探知送言報ヲ発ス
 (一、二、三、〇受信)
 右ニ因駢尸外ヨリ
 〇機直敵潜水艦ヲ制止箱崎スルヤ
 行動スヘキニト
 四日ハ二十日又ハ二十九日ト予定スルコ
 ト
 ヲ令セラレタルモ當時濃霧視界不良

116

<p>〇四二一四。松ヶ 崎、八五二。度間 三。料附近ヲ艦艇 二隻概不南北ニ行 動(視認)</p>	<p>通 三。行動海面 〇九三。一。頃迄視界 約二。〇。米程度トナリ タル外終日濃霧視 界概不五。〇。米以内 南西風一〇米以内 海平十信</p>	<p>ニレテ信号通達困難且燈籠使用 ヨリ敵ニ變針ヲ察知セラルルヲ警告時 羽之朝ノ天明視界ヲ恢復ヲ待リ 六。對潜警戒時ヲ嚴ニミツツ検知及探信。 (島風)ニヨリ搜索ス 七。八日ヲ二十日ト予定ス</p>
--	--	--

七月二十六日

敵情	氣象	経過概要
<p>一 航空機 (1) 哨戒 (自〇一〇一〇 至一四三〇) 「クルック」基地ニ一三三三 (十三区ニ機) 「アムナト」基地一八九区ニ (七九区ニ機宛) 熱田基地五一〇区ニ (区ニ機) 哨戒極メテ嚴重ニシテ 特ニ注意ヲ要ス</p>	<p>一〇六。ハ氣象判断(鳴神島) 二七。日偏西風半晴 二八。日偏西風曇時霧 二九。日天氣悪クナル 鳴神島方面 偏西風弱、日中概ハ快晴 視界三。料内外航行適 三。行動海面 〇。三四。一。二五。視界約七料 一。三〇。一。三五。視界五料 乃至二。料</p>	<p>一〇三。視界一時良好トナリシヲ以テ一八。度ニ 度針速力一四節トナシ敵潜水艦ヲ韃晦 本韃晦運動實施後敵潜水艦、電波ヲ感 ズ(昨日来、敵潜通信情況及内容ニ鑑 作戰部隊、発見セザレザリシモ、ト認ム) 二〇七。頃多摩阿武隈左艦正横附近ニ進 出シ 炸弾謀長ヨリ左、信號アリ 南下ヲ續ルモ天候有利ナラズ成ル可ク速 二三。度方向ニ韃晦シ日本丸特機線ヲ</p>

8

四攻撃

110330-192330

延岡機以上鳴神島

空襲主トシテ飛行場

松崎方面銃爆撃

戦果P-1撃破

被害戦死二重軽

傷各一

110319及3109夫々

機種不明單機鳴神島

來襲小浦附近及轉

地附近ヲ爆撃

爆撃後島上空ニ

1500-1715視界約五

料乃至一五料

右、外終日濃霧(霧雨)

偏西風七八米

海上平穩

現在計畫線北西ニ変更補給ノ上天
候即應進出シ得ル如ク行動セラレ度キ

内意ナリ

右ニ関シテハ昨日ヨリ十八日ト予定セル今日

(三十七日鳴神天候予察ハ半晴ニ行動不道

北上針路ヲ急グノ要ナク當分南下行動

ヲ續行敵潛ヲ韜晦ニ十八日突入ニ向ニ

合フ如ク行動セバ可ナリト認メ左通照會

「現運動ハ昨日ヲ十八日トシ潜水艦韜晦ヲ

意味スニ十七日ハ不可能ナリ

ニ補給本日阿武隈水曾ヲ實施シ明

日駆逐艦四隻ヲ實施ノ予定

ニ尚三〇〇度ニ度ニ度針ノ要アリヤ

照明爆彈一個投下

(約一五分照明持續)

い。七。三敵飛行艦機

第五海洋丸銃爆撃

北緯九度五分東經一

六。度三。分

艦艇

い。三。一。七。三。駆逐艦

一隻「キスカ」富士ノ五。

度二五―三五料附近

ヲ東西ニ行動(八回

視認)

い。二。三。九。一。五。九。小艇艦

然ルニ。再度目撃アリ

敵潜伏在確實ニテ且敵水上艦艇出現

ヲモテ予想スルニ當海面ニ於テ往復運動ヲナ

スハ有利ナラス先ノ信辨ノ主旨ニ依リ行動

スルヲ任務達成上並ニ潜水艦鞏固上必

要ト認ムトノ意見アリ

(當方ニ於テ三。度、針路ハ反ツテ敵潜伏在

面ニ込ツト思ヒ艦隊司令部、意見完全

ニ解レ得ズ)

三。四。針路三。〇。度トナス

一。二。五。反射体五個投入

四。三。〇。速力十一節トナレ阿武隈本曾(引續

キ多摩摩)ノ補給實施

艦(全長約四米)一隻
 松崎、七五度一二度
 約三料附近ヲ概テ南
 北ニ行動(連續視認)
 一九三〇敵機來襲中
 ヲ岬南方探照灯
 光茫ヲ認メ次テ二〇五
 ヲ約五分間砲聲
 斷續(艦艇交戦セルモ
 ノト認ム)
 (三)東方海面
 二〇三七ダナダック島
 附近ニ火光信標ヲシキモ

五二〇〇一七。頃ニテ視界良好トナリシヲ
 以テ國後ヲ視界内ニ求ムルモ見エズ
 天。頃予定計畫ノ補給隊待機線、延
 長線通過)
 六乙日ヨリ八日トシ今後ノ行動予定ヲ左通リ
 外參謀長ニ通報
 指示ニ從ヒ今後ノ予定ヲ左通定ム
 一八。針路。度明日〇三。針路四五度
 若計畫ニハ日本丸待機線ハ西方ニ約五
 〇哩寄ルモ三〇〇以後アマチトカノ九日
 ヲ通航スルコトナリ對空警戒上考
 慮ヲ要ス
 七二七四濃霧視界約三〇〇米位、時阿武

119

モノヲ認ム
北西海面

一九四三桂決ノニ五。

度一。料附近ニ

艦艇五隻認ム

ト、報アリ（確

實性少）

右十五度ニ。米附近ニ突如國後出現回避、

餘猶テ國後船ヲ以テ阿武隈右舷中部兵

員急炊室ニ衝突後續艦警笛及電話

ニヨリ適宜回避運動ヲ採レルモ隊形稍混

乱シ初霜艦首ヲ以テ若母右舷ニ艦

尾ヲ以テ長波左舷後部ニ觸衝セリ

被害状況

(1)阿武隈中部右舷二箇所ニ破口ヲ生ゼル

モ戦闘航海ニ支障ナシ

(2)長波後部ニ若干ノ浸水アルモ戦闘航海ニ

支障ナシ

(3)若母初霜最大發揮速力十二節ニシテ

作戦参加不能トナル

三何レモ人員ニ被害ナシ
 五一時電話連絡混乱シ右事故ヨリ後續艦
 ノ状況判明セザルモ停止セル駆逐艦アル
 氣配モアリ連絡ヲ失スルヲ恐レ
 一八三ノ速カキ五節トナシ後續艦ノ收
 容ニ努ム
 六右速カノ隊形保持上有利ナラザルヲ感
 ジ、
 二一〇ノ速カ九節トナス

120

七月二十七日

敬情	気象	経過概要
<p>一 航空機 一 哨戒 (組三三三) 一 トラック「基地」五区 一 〇一三區 一 二一三區各二機 一 アキトカ「基地」四 九區 一 熱田基地「一三區」 一 文庫 〇三七一三三三土回 延八七機鳴伸島</p>	<p>一 〇三〇。Isd 氣象判断鳴伸島 一 〇三。北風稍後法雲 一 〇二。偏東風霧発生 一 〇一。一時曇下ルモ再 一 〇。濃霧雷雨降 一 〇〇。乍気象判断鳴伸島 一 〇。南四五―六米 一 〇。西高。米法霧 一 〇。視界四軒</p>	<p>一 昨夜ノ触衝事故ノ為一時後落分角セ 一 西番隊(若菜、初霜、長波)合同ノ為 一 〇六四五高射砲発砲 一 各隊発砲音ニ依リ集結運動ヲトリ 一 〇七五合同ヲ了ス 一 〇七〇。P-51ヨリ 一 〇。日ヲ下九日ト予定シ水雷部隊指 一 揮官ハ右ニ應ズルヤリ行動スヘキ命接 一 ス 一 〇。反転 針路 一三〇度 一 〇。針路 九〇度トナス</p>

襲能少場松ヶ崎
 小嶋神島等全面的
 二銃爆夷
 戦果
 出撃
 P40(二四一不確實)
 夷破
 B-24
 P40一
 被害
 戦死三重傷八
 家屋六棟大中破
 艦艇
 〇三八一二二

飛行稍不適
 三日概不同様九七多少
 勝多し
 鳴神島進行勅海面
 概不現状、天候續見
 込
 三鳴神島方面
 北西風。米内外皆
 晴又薄曇シテ勝多
 視界概不三料内外
 飛行適
 四行勅海面
 〇七三〇一〇七五五

四一〇一三三〇
 驅逐隊補給實施(除二上艦)
 五五艦隊信令ニ依リ
 一〇艦隊上艦隊司令官島岡ニ米艦
 水雷隊指揮官所定ニ依リ艦隊
 ノ指揮ニ任スルコトナリ
 一四三島岡ニ移業ス
 四若業司令官島岡ニ移業後単独艦
 艦二回航八海丸ニ應急修理實施
 コトナリ解列
 一〇初霜八國後海防艦長ノ指揮ヲ受
 々日本丸ノ護衛航トナル

21

	<p>驅逐艦「夏鳴神」 七ノ四〇一ニ〇度三。 料附近ノ概不南 北ニ行動（視認）</p>
	<p>〇九五五一一〇四ム 一三五〇一六五〇 視界リム〇〇一三〇〇米ト ナリシ外概不視界リ〇〇 米以内ノ濃霧南風 弱ク海上極ク平穩</p>

127
127

0035

122

七月二十八日

敵情	氣象	經過概要
<p>一、航空機 (1) 哨戒(自051) カルツラ基地一。 一三三(一〇三三機) 五ノ下力基地四 七一九区 熱田基地四一〇区 (四) 攻撃 〇〇五五、一八三七 五回 延二九機、鳴神</p>	<p>一〇一〇 Isd 氣象判断 鳴神島西南西方向 高氣壓(七七四徐々) 二東ニ移動、低氣壓 午島附近ニ殆下停 滯 二八日午前霧、午後 半晴霧ナシ 元日鳴神島附近曇 三〇日ソノ南方海面 霧殆んどナシ</p>	<p>一〇一〇 針路三〇度、速力十節 トナレ突入航路ニ入ル 二〇九〇〇一、一二二〇 阿武隈、木曾、薄雲、郷音補給 實施 三午前天測實施ノ機會ヲ得 (本行動中唯一回ノミ) 艦位ヲ確認スルヲ得タリ 四、一二〇。速力一四、五節トナス 五、艦位修正、爲 二四〇。針路 零度</p>

島米藪各地銃

爆撃

。被害 戦死一

二、艦艇

〇〇一〇二七

駆逐艦一隻

鳴神富士八四。

八。度間約

二十料附近ヲ

西進(三回視認)

天氣悪クナル見込

ナルモ今ノ所不詳

二〇六。Isa 氣象判断

(鳴神島)

九日偏西風曇

霧漸續

三日曇夕刻ヨリ霧

發生

三日濃霧又ハ雨

三。八。Isa 天氣豫察

九日南西八米位

曇層雲断霧

ヲ伴フ

一六。針路 三〇度トナス

六。一七。補給隊(日本丸國後

初霜)

解列及轉ス

時々視界良好ト

ナル

三〇日 同 右

四、二〇〇五根氣東判断

九月 偏南後東風

弱ク煙霧多キ見込

飛行不適

五、一五〇五艦隊氣象判断

(鳴神島)

二九日 南西六米曇

雲高二〇〇米

尖霧視界四料

飛行稍不適

三日 西七米

午前曇 淡霧

午後晴間アリ

行勤海面所々切間

足毛 概不霧續見込

六、鳴神島方面

南乃至西南弱ク

静穏。四。頃ヨリ

霧トナリ 視界ニ

一五新 航行不適

トナル

七、行勤海面

南西、風弱、海上

124

極又テ平穩
 一〇〇一〇三ノ間
 視界約一五料ニ
 擴大シタルコトアリシ
 外濃霧ニシテ視界
 概一料以办

七月二十九日

敵情	気象	経過概要
<p>一 航空機 (1) 哨戒 (自08:38) 「2」その他 一〇、 一三區 熱田基地 四、八區 一〇區 (四) 攻撃 濃霧ノ為ニ 艦艇 水雷部隊鳴神島 ニ突入撤収ヲ 敢行セルモ遂ニ</p>	<p>一 08:00 氣象判断 (鳴神島) 午前中濃霧又露雨 午後ヨリ曇トナリ霧 薄ラゲ 二 03:40 氣象判断 (鳴神島) 二十九日終日霧又小雨 霧視界不良飛行 不適 三十日 午前 霧 午後 晴</p>	<p>一 03:00 十八節 (豫定通り) 二 天候悪キ為カ敵各艦行基地 共飛行機ノ活動不活潑ニシテ 僅カニ「クルック」基地十五十一區 哨戒機ノミ飛翔 且各部ノ氣象状況並ニ氣象 判断ヲ綜合スルニ鳴神島突入 決行絶好ノ機會ナルヲ思ハズ 〇一五 且「フ」ヨリ (1) 霧ノ状況行動ニ最適天佑 神助ナリ (四) 鳴神島進入時刻ヲ繰上ゲ實施</p>

故ヲ鬼ノ

行動海面霧概ネ
連續ノ見込

低氣壓七五ニ耗

〇〇〇「コマンドルスキー」

附近ニ在リ時速ニ

料程度ニテ東進中

三、鳴神島及行動海面

偏西風五米外

終日濃霧若ハ露雨

時ニ視界三〇〇米

程度トナルコトアルモ

概一五〇米以内

海上極メテ平穏

スルヲ適當ト認ムトノ意見アリ

一四〇〇入港ヲ期シ〇五〇速力ニ節

トナス

三、突入ノ見込立チタルヲ以テ多摩ハ

〇七〇新次後退行動部隊ト

分離ス

四、現速力ニテ航進順調ニ經過セバ

一三〇〇頃入港ノコトナリ鳴神島

ニ於ケル撤收準備間ニ合ハス

若シ電報ヲ奔スレバ企圖ヲ曝露

シ敵ノ妨害大ナルベキヲ慮リ

一四三〇(豫定ノ準備完了時刻)頃

入港ヲ期シ〇八〇速力六節

港内視界約三〇米

針路〇度トナス

五〇八五五 且57ヨリ

入港時刻ヲ四時間繰上ケト

通報發セシ鳴神島ニ於ケル

準備間ニ合フベキヲ豫想シ

一三三。入港ヲ期シ〇九〇。速力

二〇節トナス

六。針路五五度速力十四節

トナシ防雷具投入 防雷避雷

航行ヲ實施ス

一〇一五第五警戒 航行序列ニ

占位突入隊形制形

七。爾後濃霧中ヲ測深探信

鳴神島無線方位等ニ依リ
 艦位ヲ推測シツテ適宜変針
 変速、突入運動ヲ實施中
 二〇五九三度方向ニ鳴神島
 最南端ヲ敵目見シ艦位ヲ確認
 概ネ巨岸一哩附近ノ接岸航
 路ヲ擇リテ一三四〇無事鳴神
 港ニ入泊セリ
 八〇五五長波四五度方向ニ
 一〇八五「メガサイクル」ヲ檢知
 セルモ爾後敵情ヲ得ズ
 九二五〇五一根ヨリ
 一二二五松ヶ崎、六七度二十料

三 艦ノ音源ヲ聴クレトノ通報
 アリ且鳴神港口ニ於テ島風ハ
 一四〇度方向ニ一〇ノメがサイクル
 ヲ感度ニ檢知シタルヲ以テ
 鳴神港外ニハ敵艦艇ノ存在ヲ
 豫期シテアリレバ偶々一三〇〇
 視界約一〇〇米ノ時突然ニ〇〇
 度方向ニ艦影(前甲板ニテ敵
 艦ナルコト確費ト報告艦橋
 ニテハ小鳴神島トラスヤト思ヒ
 居タルモ霧中前甲板ノ視認
 確費ナルコト及前記電探檢
 知ト思ヒ合セ若シ敵艦ナル時

彼等被攻撃ヲ恐レ先制攻撃
 ノ意味ヲ一三〇七阿武隈魚雷
 四発発射ス(全部爆発ス)
 右戦斗運動ノ夕メ隊形屈曲シ
 稍整正ヲ缺キシモ間モ無ク右
 艦影ヲキモハ小鳴神島小島崎
 ナルト判明セラル以テ戦斗行動
 ラ止メ適宜誘導港内キ入泊シ得
 ナリ
 一、鳴神港外ハ全面的ニ濃霧ニ
 包マレアリシモ港内ハ視界良好
 ニシテ入泊並ニ撤收作業迅速
 順當ニ實施セラレ

一四三五 第二輸送隊(本曾九駆郷)
 一四三五 第一輸送隊(阿武隈十駆)
 ノ頃ニ出港約一哩ノ接岸航路
 フトリテ漸次増速一六〇速力
 二八節トナシ歸投航路ニ入ル
 二一六三七視界三〇〇米位ノ時
 五二度八分北一七七度十三分東
 ニ於テ阿武隈敵浮上潜水艦発見
 (右九〇度約二〇〇米)左四五度
 回避敵潜間モナク潜没シ
 魚雷発射ノ形跡ナキヲ以テ
 豫定ノ如ク斜路ニ二五度速力
 二八節ヲ以テ歸投航路ニ就ク

敵潜水艇見ノ場合 駆逐艦
 ヲシテ 攻撃セシメザリシハ 高
 速 歸 投 ヲ 重 視 シ之ガタメ
 駆逐艦ヲ分離スルヲ不利ト
 認メタルヲメナリ
 左潜水艦ノ発見ニ依リ我企
 圖行動ノ曝露セル疑ヒ大ナリ
 シモ敵潜水艇ノ攻撃セザルコト及其
 ノ後該潜水艦ノ無線発信ナク
 翌日ノ敵艦行機モ特ニ顯著
 ナル傾向ヲ示サザリシコトヨリ霧中
 発見トトテ當日及翌日位ヲハ
 或ハ味方艦艇ト思ヒ居タルニ非

0048

ズヤト認メラル

七月三日

敵情	氣象	經過概要
<p>一、航空機 警戒(自〇三三六) クルック基地三三三 アキカシ基地七八 九区 熱田基地五〇三 (六七区ニ機) 二、通信 〇五二三及〇五三九 在クルック北方 部隊指揮官ヨ</p>	<p>行動海面西乃至 南西ノ風一〇米外 時ニ濃霧透アリ 時ニ視界入〇〇米 程度ニ擴大スルニアリ シモ殆ト終日濃 霧視界概ネ一〇〇 米内外海上平穩</p>	<p>〇三三〇速力ニ四節 〇三三〇速力ニ〇節トナス 雨後濃霧中附近行動中ノ 第二輸送隊第一護衛隊補給隊 多摩等トノ混淆注ニ敵基地 航空機ノ警戒ヲ避ケ八月一日 早朝幌巡着ヲ目途トシ対潜 警戒燃料節約等ヲ考慮 シテ適宜変針変速別圖 ノ如ク行動ス</p>

0900

作戰部隊宛
作戰特別緊
急電報一通
宛送信ナル

七月三十一日

敵情	<p>航空機 一、哨戒(自四五〇) 三〇 「クルック」基地三區 ソノ他ナシ 二、陸軍機 「スツ」基地二機 「エド」基地一機 「波」機</p>
氣象	<p>行動海面 西ガ至南西風一糸程 度ニシテ海上稍荒気味 。九五。一。一。一。 一六。一。一七。二。 晴時上時水平線ヲ認 ムニ至リタル外終日陰勝 (晴雨)ニシテ視界一。 。米内外</p>
経過概要	<p>一行動前日ニ同シ 二、第五輸送隊及第一警戒隊幌筵海 峽着</p>

八月一日

敵情

氣

象

経過

概

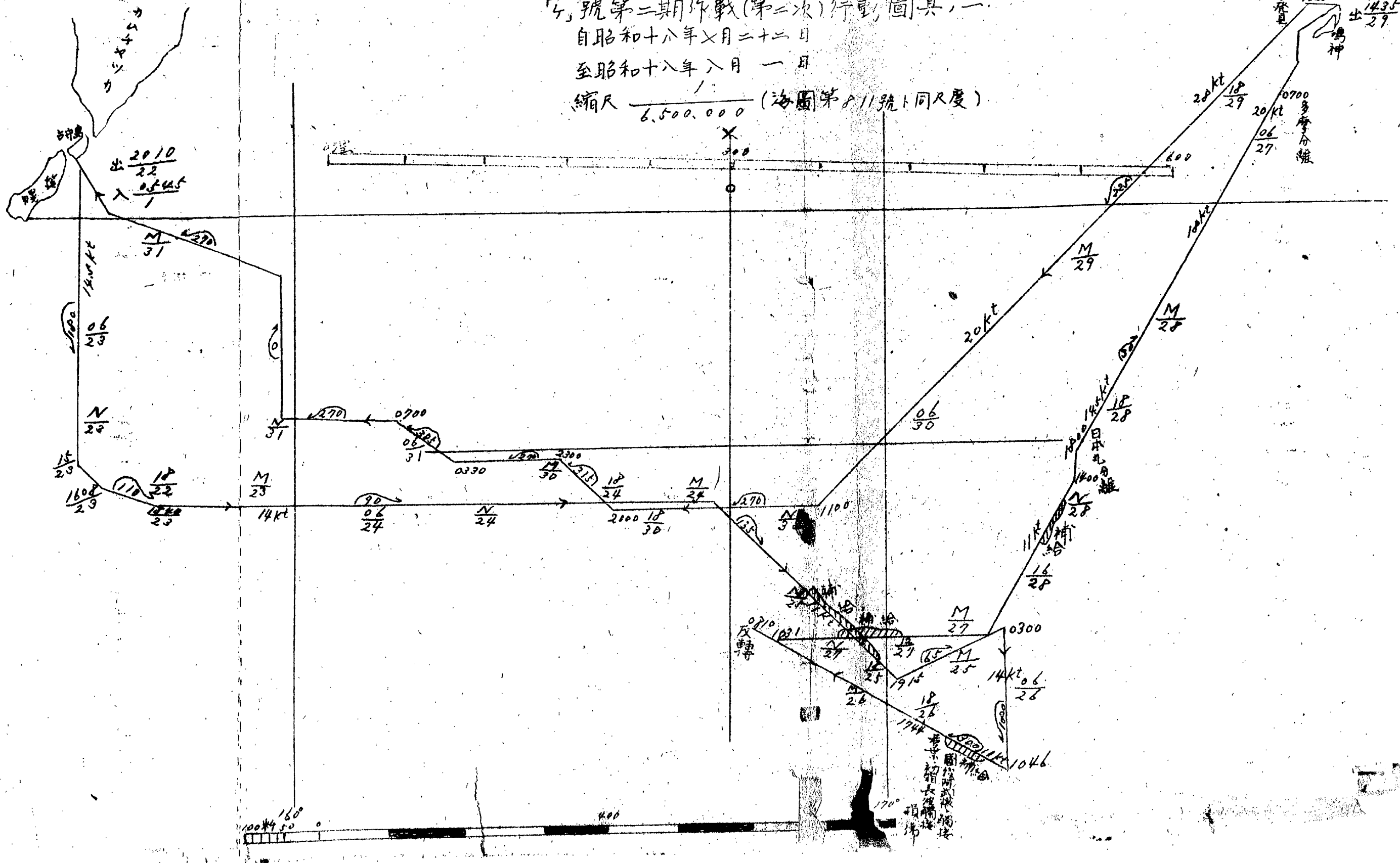
要

一〇五四五第輸送隊第二警戒隊
幌筵海峽着
二〇四五補給隊幌筵海峽着

8900

131. Trip 136

小隊部隊 (北方部隊) 4 號第二期作戰 (第二次) 行進圖其 一
 自昭和十八年七月二十二日
 至昭和十八年八月一日
 縮尺 $\frac{1}{6,500,000}$ (海圖第 811 號同尺度)



附圖第一(改訂)
 4號第二期作戰(第二次)
 水雷部隊

